

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第6回地域公共交通再編検討分科会		
日時	平成24年1月31日(火) 午後2時55分～午後4時30分	場所	木津川市役所第2北別館
出席者 (出席者…■) (欠席者…□)	委員	<p>【学識経験者】</p> <p>■中川 大委員(副会長・座長)、■大庭哲治委員</p> <p>【市民代表】</p> <p>■永松迪哉委員、□田中英治委員、■森岡宣之委員、■鶴岡由雄委員、 ■坂本利正委員、■中岡武司委員、■竹澤哲之委員</p> <p>【行政機関】</p> <p>□西川孝秀委員、■足立高広委員、□鈴木宏治委員、 ■藤林英和委員 ※代理：奈良由雄(木津川市建設部次長)</p>	
事務局	尾崎課長事務取扱、武田主幹、西村主任		
傍聴者	3人		
議題	<p>1. 開会</p> <p>2. 座長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①ガイドライン・一日乗車券の検討状況について</p> <p>○ガイドラインについて</p> <p>○一日乗車券について</p> <p>(2) その他</p> <p>①法定協議会への報告の取扱について</p> <p>②その他</p> <p>4. 閉会</p>		
会議結果要旨	<p>1. 開会</p> <p>事務局より開会を宣言した。</p> <p>2. 座長あいさつ</p> <p>議事にあたり、中川座長からあいさつがあった。</p> <p>3. 議事</p> <p>地域公共交通再編検討分科会設置規程により、中川座長が議長となり、また議長から会議録の署名委員として、中岡武司委員を指名した。</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①ガイドライン・一日乗車券の検討状況について</p> <p>第15回木津川市地域公共交通総合連携協議会資料「No.4 コミュニティバス等の持続可能な運行のためのガイドラインの検討」及び「No.5 一日乗車券の取り扱いについて(素案)」を用いて、ガイドライン・一日乗車券の検討状況について説明した。</p>		

	<p>(2) その他</p> <p>①法定協議会への報告の取扱について 分科会での検討結果を協議会へ報告する。</p> <p>②その他</p> <p>4. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p>	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 座長あいさつ 会議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①ガイドライン・一日乗車券の検討状況について</p> <p>【配布資料】</p> <p>第15回木津川市地域公共交通総合連携協議会資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「No.4 コミュニティバス等の持続可能な運行のためのガイドラインの検討」 ・「No.5 一日乗車券の取り扱いについて(素案)」 <p>【主な意見・質疑等】(○…質疑・意見、▶…質疑・意見に対する返答)</p> <p>ガイドラインについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 条件を整えばバス事業の運行開始は容易であるが、撤退は容易ではない。そのような中で定時定路線運行の目安を掘り下げ、状況に応じ運行形態を変更していくことは非常に重要だと認識している。しかし、現状は利用者人数のみで条件を見ているが、地域ごとに事業者も異なるであろうし、収支率も考慮すべきではないか。 ○ 経費を中心とした考え方の中で、切り捨てのためのガイドラインであってはならない。何故バスに乗らないのかということについては、運行会社の車両・ダイヤ等の都合が先に立つ。そのあたりについてもよく研究をしなければならない。 山城線は木津駅まで来ているからこそ便利。加茂～木津間も運行できないか。検討の余地は無いのか。 ○ 収支率というのは地域によって違うので、この観点は必要。切り捨てでは決して無い。乗って支えて行くのがコミュニティバスなので、地域で盛り上がっていき、維持できる方向に進めば良いというふうに、ポジティブに考えたい。 JR加茂に関しては、関西本線は便数を減らしている。さらにバスを平行して走らせるともっと減らす口実になりかねない。一昨年、加茂～木津間にバスがあったが、乗降客はほとんどいなかった。 ○ きのつバスは、収益性を考え値上げしたのに、加茂路線は収益以外の話になると、整合性が無くなる。収益性を高める値上げも本当に必要であれば考えるべきである。 ○ 木津～加茂間は奈良交通と競合するため走らせられないという話があった。バ

スがなくなった法花寺野・大野の空白地域についてどう考えているか。地域ごとの移動格差についてどう考えているか。

- JRとコミュニティバスの関係で、乗り換えをできるだけしないで済む方法を考えるため、利用実態をよく見る必要がある。地域の盛り上げも重要である。
- 基準設定の重要性はわかるが慎重な議論が必要である。住民主体の活動の盛り上がりも大事であるし、住民への啓発も大切である。しかし、今日の交通網が形成されるに至った性格に重きをおいて検討をする必要もあるのではないか。
- 山城地域は圧倒的に高齢者が多い。住民が活用でき、運賃も利用しやすい形態にする。1日乗車券は利便性向上につながる。利用者を増やす工夫をしてほしい。
- きのつバスは大変便利。ただし料金値上げで利用者が減った。値上げの理由がわからないという方もおられ宣伝の重要性を感じた。例えば観光利用、自治会の利用等、様々な利用方法をPRしてはどうか。
- 加茂地域の利用促進という意味でも、鹿背山～加茂間についてつないでほしい。
- フローについて、開始時期をはじめ、期間にどれだけ要するのかスケジュール感がよくわからない。
 - ▶ 必要なバスについては残していくことが重要であり、ガイドラインを示すことにより、なんとか残すための、地域での利用促進につながればと思っている。すぐにはなく、1年程度のスケジュール感をもって、いろいろな手立てをしていきたい。本日は、どういう形であれば乗っていただけるのかをご議論や意見を頂き、素案を煮詰めていきたい。
- 観光という観点から、木津駅から当尾地域への直接観光路線はできないのだろうか。鉄道との競合の問題も少ない。木津川市の観光振興に非常に大きな効果が出ると思う。
- 継続に向けて努力していくことを前提としているのであれば、ガイドラインはあったほうが良いのではないか。廃止の方向だけに向かっているのではない。また数字だけでなく地域の盛り上がりの要素も入っており、地域への道が広がっている。
 - 一旦走らせた以上は絶対に無くしたくないが、空気を走らせる訳にもいかない。ガイドラインの基本の方向性はいいのではないか。
- 収支率について意見が出ている。収支率も考慮してはどうか。
 - ▶ 加茂路線については、自家用有償旅客運送を行っており、もともと経費的にかなり抑えられている。
- 全体のスケジュール等はどうなるのか。
 - ▶ 時期については、今後協議会で提案し進めていきたい。新年度という訳ではなく、実証実験が終わる10月をめどにまとめ、来年度から開始したい。
- 地元に影響が大きい問題であり、いつからのデータを使うのかをはっきりさせておく必要がある。
- 見直しの時期はわかったが、数字を見れば判断はすぐ出来る。判断してしまうとすぐに休廃止になってしまうので、それまでに住民が頑張れる時間はないのか。どう確保するのか。
 - ▶ ガイドラインが策定されれば、現状のままどうなるのか、また今乗らないと将来がないということをお知らせしていきたい。
- 一便あたり一人というのは、頑張っていたいただきたい数字。

- 最終、デマンドタクシーとなった場合、神童子線に限らず技術革新による新しい方法を探して勉強してほしい。
- 加茂地域から木津に出てくるのが大変という話。加茂と木津を繋いでほしいという話もあるが、運行距離が格段に伸びるので厳しいのかなと思う。
- きのつバスは、鹿背山で待っている時間がある。その時間を活用し加茂へ延伸してほしい。
- 3町合併による住民の交流を図るという観点でも、木津への直結路線を考えてほしい。
- 均一料金であるが、地域によって価格に対する考え方は異なる。距離を考えた料金は検討できないか。
- 距離に応じて運賃を変えるのは合理的だが、そのためにコストがかかるので難しいのでは。
- 地域組織とはどのようなものか。
 - ▶ 具体的に想定はしていない。町内会も含め、形態は種々あるだろうが、自分たちで守る団体というイメージ。
- 住民の中でそのバスの本当の必要性、地域にとってなくてはならないものという事を理解してもらえると利用が変わる。そういう動きについては評価をして行くことが大事。

一日乗車券について

- 京都市内であれば、見どころがたくさんあって一日乗車券はいいが、よく乗っても一往復の利用が多い中で、一日券とはいえ実際メリットがあるのか。
- 乗り継ぎ運賃の緩和が前提にある。病院へ行って買い物に寄って帰る方にはいい取り組みである。
- まとめ買いしかできないのか。
 - ▶ 車内以外では一枚ずつ購入可能で調整していきたい。市役所や支所の窓口での販売を検討している。
- 発売場所を増やしてほしい。山城地域であれば市役所とやすらぎ苑と最低3箇所くらいほしい。
- 有効期限は。
 - ▶ 有効期限は特に考えていない。
- 個人店舗などの販売は。
 - ▶ 販売枚数や店舗との対応の兼ね合いもあるので、検討したい。
- 個人店舗での販売は、お店に買いに来てもらえるというメリットもある。購入は自治会などを通じての共同購入もあるかもしれない。
 - ▶ 地元の協力も賜りたい。
- サイズが大きい。好意を持てるようなデザインも重要。
 - ▶ あまり小さいと削りにくいので、これくらいのサイズがいいと考えた。
- 名刺入れサイズが一番使いやすい。二つ折り財布では苦しい。
 - ▶ 利用形態に応じて、大きさについては検討する。
- スクラッチの事例はあるのか。
- ある。半分に折れるようには工夫しておいたほうが良い。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 削り間違いや使い回しへの対応は。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 利用者責任。そういう対応も含めこの大きさとしている。 ○ 性別は必要か <ul style="list-style-type: none"> ▶ 不正利用への対策のひとつとしてかんがえた。 ○ まずは乗ってもらうことが大切。路線が繋がっていないという話があるが、対応策を検討できないか。加茂～木津で両方使うと 100 円割引とか。利用が増えるかもしれない。また、100 枚集めるとか、1 週間毎日乗ると何かプレゼント等、利用促進のツールとしての使い方もある。 <p>(2) その他</p> <p>①法定協議会への報告の取扱いについて 次回協議会で報告を行う。</p> <p>②その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 商業者、商工会の方も市民代表に加えてはどうか。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 協議会での決定事項で、関連のあるものは商工会等にも報告する。なお市民委員については、公募委員の形で応募していただきたい。 <p>4. 閉 会 会議結果要旨のとおり。</p> <p style="text-align: right;">以上。</p>
<p>その 他 特記事項</p>	